

(別紙様式2)

普及指導員調査研究報告書

所属名： 岩国農林事務所農業部

担当者名： 松本 直子

課題名	消費者ニーズを反映した商品づくりに関する調査
1	調査研究チームの構成 松本直子
2	課題の目的 岩国市山間地では高齢化の急速な進展により、高齢夫婦・独居世帯が増えている。A地区では、全戸が組合員となっている加工組織がある。夕食用の宅配弁当について、地区のニーズに合った商品づくりを進めるとともに、加工組織への要望を収集し、今後の加工組織の活動に反映させることを目的に、アンケート調査を実施する。
3	調査研究期間 平成24年7月13日～31日
4	調査研究の対象地域・場所 ・場所：岩国市A地区 ・対象：全戸（56戸）
5	調査研究方法の概要 加工組織の作業従事者が分担し、調査票を全戸に配布・回収を行った。
6	結果の概要、成果（または中間報告） (1) 回答者の概要 ・回答者数40（7割が女性で、70歳代以上が7割） (2)加工組織の弁当について ・加工組織の弁当を注文したことがある人は全体の65%、注文したことがない人は25%であった。弁当を注文した理由としては、「手づくりだから」が22名で20%占めた。次いで「地元の食材だから」「地元の人で作ってるから」が19名ずつ、「美味しいから」が18名となっており、身近で顔の見える関係にある人たちが地元の食材で手づくりしているという安心感から注文していることが分かった。 ・「今後弁当を注文したいか」という問いに対しては、全体の7割が注文したいと答えている。 ・一方で、弁当を注文したことがない人の理由については、「同じものばかり入っているから」が7名と最も多く、次いで「季節感がない」が4名あった。メニューに旬の素材を取り入れ、マンネリ化しない工夫が必要であることが伺える。

(3) 夕食弁当に対するニーズについて

- ・ 1人分の夕食弁当として買いたい値段は、「400円」が38%、「500円」も38%とこの価格帯を75%が支持しており、消費者のニーズが高いことが分かった。
- ・ 1週間に注文したい回数としては、「週1回」が最もニーズが高く60%、「週2回」が15%となった。将来的には「週3回以上」や「料理が出来なくなったらお願いしたい」と回答した人もあり将来的にニーズが高くなることが予想される。
- ・ 「弁当」と「惣菜」のどちらを買いたいかという問いに対しては、過半数となる55%が「惣菜」を希望し、「弁当」希望者は全体の3割に当たる13名であった。
- ・ 「惣菜」として買いたい値段は、約5割にあたる18名が「300円」を支持、次いで約2割をしめる9名が「200円」を希望、「400円」は1割の5名のみとなった。経済的に負担の少ない低価格帯の希望者が多い。また「品物によって注文する」と回答した人が3名あるため、具体的なメニューが決まったら広くPRすることが利用者の増加につながると思われる。

(4) 加工組織への要望

- ・ 弁当メニューとしては、夏はスタミナ食、冬はおでんやなべ物など温かいもので目先の変った塩分、糖분을控えた料理が望まれている。
- ・ 食事作りに対する将来的な不安を記入された方が2名あり、高齢化が進む中で地域で助け合ってくらししていく方法を考えていく必要がある。
- ・ 男性の料理教室の開催、年越しそばの提供、正月や盆のオードブル・正月用の餅注文販売など高齢化の進展に伴う食に関する要望があげられた。

7 今後の問題点

(1) 四季の食材を活用したメニューの研究

加工組織の売上は近年減少傾向にあり、地区外への売り出しやPRを検討していたが、今回改めて地区内での食に対する潜在的な需要があることが分かった。ニーズに応え住みやすい地域づくりを進めていくためにも、少数意見を尊重して四季折々の食材を活用した目先の変った料理を研究していく必要がある。

(2) ニーズに応じた夕食弁当の試作

最もニーズの高かった400～500円の夕食弁当、200～300円の惣菜の試作を行い、まずは週1回から注文販売を試行していく。取り組みについて広くPRしながらメニューについての意見も収集し、加工組織と地区住民双方にとってメリットのあるしくみを作っていく必要がある。

8 普及活動上の留意点

夕食弁当用についてのアンケートにあわせて、加工組織への要望も収集したところ、正月や盆のオードブルの注文や年越しそばの提供等、新しいアイデアが寄せられた。加工従事者に無理のない範囲で取組について検討し、地域を支え、地域に支えられる加工組織のあり方を模索していく必要がある。

※ 報告書は図表、写真等を含めてA4判で2ページ以内にまとめること